

イノアックグループでは、お客様に安心して安全にご使用いただける製品の品質を保証し、ご満足いただける商品やサービスを提供するため、ISO9001を基本とした総合的なマネジメントシステムを導入し、お取引先様と連携して品質保証システムに継続して取り組んでいます。

製品における安全性を、当然備えるべき「基本品質」と考えています。コンプライアンス行動規準において製品安全性確保について定め、その実践のための体制を整備するとともに、本質的安全設計に向けた設計プロセスの強化に努めています。

基本方針

重要不具合0件

- ①重要品質問題ゼロ化
- ②品質点検の徹底、監査機能の強化
- ③新製品審査の充実

品質保証活動

1.品質保証活動を確実にする品質監査を実施

イノアックグループでは、品質マネジメントシステムのPDCA*サイクルを実施することで、プロセスの適合性・有効性を継続的に改善し、レベルアップを目的とした統合品質監査を実施しています。

※PDCA:Plan(計画) Do(実行) Check(評価) Action(改善)

2.品質確保のため製品審査を実施

イノアックグループは、製品の安全性を確保するため、新製品の開発段階で設計検証、デザインレビュー、妥当性の確認により、製品が関わって生じる危険防止対策の内容と、そのレベルが必要十分であることを客観的に評価しています。

新規性の高い製品に関しては、『新製品品質審査規定』に基づき上市可否判断を社長及び担当役員により審議しています。

3.生産における品質確保の監査を実施

イノアックグループは、製品の生産においては、材料、購入品の受け入れ品質が確保されているか、製品が設計品質に対して性能・特性を満足しているかを、『重要品質商品監査』に基づき、国内34拠点及び海外8拠点にて監査を実施して、品質確保に取り組んでいます。



4.安全性確保のための環境化学物質管理を実施

環境に影響する可能性のある物質については、化学物質管理システムを構築して、お客様からの問い合わせに対しても速やかに対応しています。購入材料・部品(国内/海外含め)の化学物質管理についても、『グリーン調達管理規定』に基づき管理を徹底しています。

5.品質向上確保のため品質教育を継続

イノアックの基盤となる一人ひとりの従業員の「仕事」の質は「製品」の質や「サービス」の質を決めるため、従事する従業員全員に対して、新入社員から基幹職まで品質教育を継続しています。

- **新入社員研修** 品質基礎知識研修、なぜなぜ分析など
- **品質管理教育** 品質管理入門、統計的品質管理手法、品質工学研修など
- **その他品質関連研修** 製品知識研修、コンプライアンス教育、化学物質管理教育など



6.海外現場力向上のためグローバル人材を育成

『地産地消の生産拠点展開と、経営の現地化促進』は会社経営基本方針であるため、海外経済の急速な発展とともに海外拠点での幹部候補の採用・教育・登用が急務になっています。

イノアックグループでは、海外拠点多い中国において、2013年からトレーナー養成、品質管理基本手法の普及など、毎年さまざまな教育を実施しています。昨年は現場力を向上するため、適切な工程管理、安定的な工程を維持できる人材育成を目的とした現場実習を全19拠点、201名の第一線現場管理者/候補者を対象に実施しました。今後中国での教育をモデルにして、タイ、インドネシア、ベトナムなどの海外拠点へ展開を行っていきます。



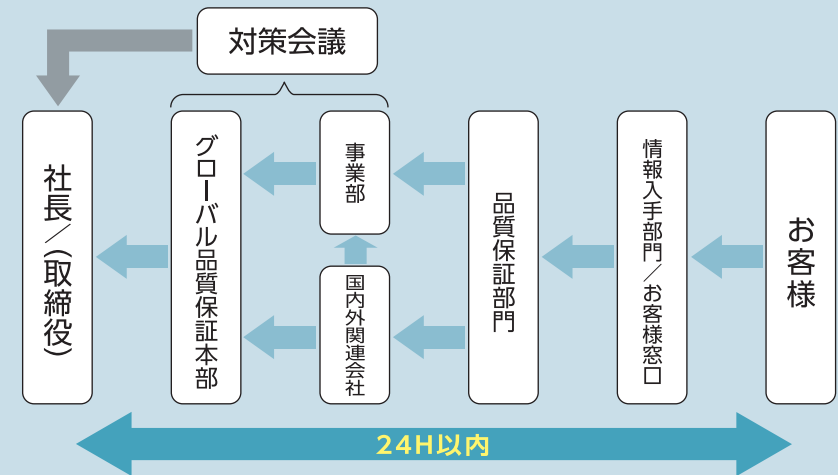
品質危機管理

重大クレームの早期発見・防止の対応体制を構築

重大な品質問題の早期発見と、同様の品質問題の未然防止に努めています。迅速かつ適切な対応を重視し、重大な品質問題の被害拡大を防止する為に「品質110番規定」を設けています。

迅速な不具合対応と共に、本品質機能部門を中心に事業部門の品質機能部門と連携し、クレームの早期発見と再発・未然防止を図っています。

■ 品質危機管理フローチャート



日本では1970年に「高齢化社会」に突入して以降、総人口における高齢化率は急激に上昇し、すでに65才以上の人口の割合が全人口の21%を超える「超高齢社会」に突入しています。今後も高齢者率は増大し、2025年には約30%、2060年には約40%に達すると予測されています。高齢化を起因とする「労働力人口の不足」「医療」「年金」「介護」などさまざまな社会問題が起きています。イノアックでは事業を通じて積極的に社会的課題に取り組んでいます。

保有不動産の介護福祉施設への積極的な転換

介護を必要とする高齢者の施設の不足も年々深刻となっており、イノアックはこのような社会の要請に応じ、保有する不動産を積極的に高齢者用施設に転換しています。2000年の愛知県名古屋市の居宅介護支援センターからスタートして、2016年には愛知県名古屋市にクリニック併設の高齢者向け住宅を開設し、これまで6つの高齢者向け施設を建設しています。施設の建物基礎部分や壁・天井に断熱性・遮熱性・防湿性を兼ね備えたイノアックの高機能断熱ボード「サーマックス」や、空気の泡で建物を包み込み優れた断熱性をもつ現場発泡断熱システム「フォームライト」を採用し省エネを促進する試みを行っているほか、空調、給湯、保温材のスペシャリストとして蓄積したノウハウを展開しています。また施設内ではオリジナル介護ブランド「すみれ」の製品シリーズや家具製品も活用しています。



ふわ・も



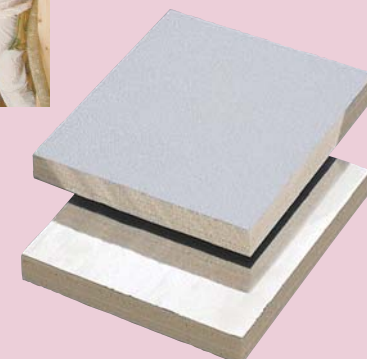
名古屋市のクリニック併設高齢者向け住宅



居室一例



フォームライト



サーマックス

イノアック介護製品ブランド“すみれ”「笑顔と笑顔でよりそうところ」の実現のために

イノアックでは1997年より体に接する部分のやさしさを追求し、品質にこだわった福祉・介護用具の開発が始まりました。2002年には日本褥瘡学会との共同開発により誕生した「リバーシブルPROマットレス」を発売。「ケアをされる方、ケアをする方それぞれに笑顔届けたい」という思いから始まり、2014年には福祉用具ブランド「すみれ」を立ち上げました。「すみれ」は“Smile”のローマ字読みをもとに名付けられました。柔らかさを基本とした製品づくりで、「笑顔と笑顔でよりそうところ」の実現をめざしています。



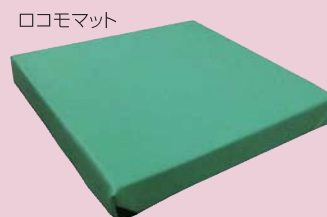
介護の現場で活躍する“すみれ”シリーズ



リバーシブルPRO
マットレス



体位変換
超通気サーティパッド



ロコモマット

VOICE

イノアックリビングからメッセージ

今後加速する高齢化社会に向けて

イノアックリビングでは、ゴム・ウレタン・樹脂素材メーカーとしての視点だけでなく、現場で使用する方の視点や利用者の方々の意見を取り入れ「本当に役に立つ商品、必要とされる商品」の商品開発を行っております。

当社の「柔らかい素材群」は、高齢者の筋肉を補助し身体の負担を軽減します。例えば、自動車シートを応用した車椅子クッションSwimolは、体圧分散性と高耐久性を実現、座が安定し立ち上がりをサポート、ピュアセルの持つ吸盤効果とPEフォームの組み合わせで、必要な場所だけを衝撃から守る「ソフトウォールクッション」などに生かされています。今後も、Safety（安全性）& Comfortable（心地よさ）をキーワードとした商品を通じて、高齢化社会に貢献できればと考えております。

また、医療・介護事業は地域密着型事業と捉え、各地工場・事業所を中心に近隣の病院・施設への医療・介護用マットなどの製品を寄贈するなどし、地域との連携・貢献を進めて参ります。



代表取締役 石井 隆

国際福祉機器展に出展



2017年9月に東京ビックサイトで開催された国際福祉機器展H.C.R2017にイノアックリビングが出展しました。今回の展示の目玉はスムーズな立ち上がりを実現する「車椅子クッションSwimol（スイモ）」です。展示ブースでは共同開発者のリハビリテーション天草病院の先生による商品紹介セミナーが開かれ、多くの人が集まりました。イノアックのウレタンモールド成形技術を活用したSwimolはこれまでの市場にはない高品質クッションを実現しており、大きな反響がありました。